

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸  
2024年度 第4回 学生交流委員会  
議事次第

日時:2024年11月29日(金)13:00~14:30

場所:オンライン(Zoom)

委員校:神戸常盤大学(委員長校)・神戸学院大学(副委員長校)

芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、  
関西学院短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、  
神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、  
神戸女子短期大学、神戸親和大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、  
園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、  
兵庫県立大学、流通科学大学

計27校

I. 協議事項

1. 2024年度学生交流委員会事業自己評価について (資料1)
2. その他

II. 報告事項

1. 2024年度事業の進捗状況について (資料2)
2. その他

III. 懇談事項

1. 第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて (資料3)
2. キッズフェスティバルについて (資料4)
3. その他

IV. 連絡・調整事項

1. 2024年度の学生交流委員会開催予定と主な議題について  
第4回委員会 2月:2025年度 事業計画・予算(案)  
第5回委員会 3月:2024年度 事業報告・決算(案)
2. その他

以上

<資料一覧>

資料1-1:事業委員会における2024年度事業の実施内容(結果)と自己評価の作成について(依頼)

資料1-2:2024年度 学生交流委員会事業 自己評価(案)

資料2-1:地域子育て支援拠点・子どもの居場所でのボランティア等活動 学生募集チラシ

資料2-2:地域子育て支援拠点・子どもの居場所でのボランティア等活動

学生振り返りワークショップ企画書(案)

資料2-3:「ヴィクトリーナ姫路×大学コンソーシアムひょうご神戸 スポーツビジネスコンテスト」実施報告書

資料2-4:「兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project」実施報告書

資料2-5:【取組2】学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」について

資料 2-6:若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」(リメンバー117)

防災動画制作第1回全体会議(キックオフ)報告書

資料 2-7:若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」被災地ワークショップ研修について

資料 3-1:WG③全国コンソ「コミュニケーションモールを活用したパネル展示等の検討」について

資料 3-2:全国コンソ「コミュニケーションモールを活用したパネル展示」に関するアンケート

資料 4-1:キッズフェスティバル2017 チラシ

資料 4-2:キッズフェスティバルに関する意向アンケート(お願い)

2024年11月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸  
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸  
理事長 中村 恵

事業委員会における2024年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成について（依頼）

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施いただきました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

## 記

## 1. 各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2024年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出

2024年度事業計画（添付1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12月5日（木）正午

## 2. 今後のスケジュール

- (1) ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12月
- (2) 第9回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12月
- (3) 第5回理事会による事業改善提案の審議：1月
- (4) 各事業委員会へのフィードバックと2025年度事業計画・予算提出依頼：1月
- (5) 第11回企画運営委員会にて2025年度事業計画・予算検討：2月
- (6) 第6回理事会による2025年度事業計画・予算審議：3月
- (7) ひょうご産官学連携協議会にて、2025年度事業計画・予算審議：3月

（添付書類）

- ・添付1 2024年度 事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：山本・谷本）  
電話：078-271-0233 メール：kanri@consortium-hyogo.jp

## 【2024年度 学生交流委員会 事業計画】

委員長校	神戸常盤大学
副委員長校	神戸学院大学
委員校 (全:27校)	芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、甲南大学、甲南女子大学 神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学 神戸女子短期大学、神戸親和大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路大学 兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
取組1	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施>WILL BE プロジェクト
達成目標	各年参加者数50名以上
活動指標	参加加盟校数10校以上/年
取組2	<学生発信ブランディング>加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施
達成目標	情報公開数200取組以上
活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上 情報公開数40取組以上/年

## 目的

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。

取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」

・年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。

上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

課題③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
予算額	取組1	テーマ型の学生交流プロジェクト 「WILL BEプロジェクト」	1,010,000円
	取組2-1	学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	240,000円
	取組2-2	学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」	9,730,900円 ※受託事業収入

## 期待される効果

他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果は以下の通り。

【取組1】学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。

【取組2】参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。

上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。

【2024年度 学生交流委員会 事業計画(③取組1-1)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加学生数30名以上
課題を解決する取組概要	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>①地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動
活動指標	参加団体5団体以上。個人参加15名以上。

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆地域の「子育て支援拠点」や「子どもの居場所」での学生ボランティア活動</p> <p>&lt;内容&gt; 1、加盟校が連携して、学生がボランティア活動や地域貢献活動に参加しやすい場、学修成果を発表できる場として、各大学が設置する施設を他大学学生にも活動先の一つとして開放・提供する。自学のプログラムやフィールドを加盟校の他大学の学生にも開放することで、学生間の交流を促進する。</p> <p>2、行政・公的団体等が設置する地域の「子どもの居場所」も対象とする。</p> <p>※加盟校で拠点を開放いただける大学があれば、随時 活動場所を追加し、学生に周知する。</p> <p>【開放施設】 ①ときわんモトロク(神戸市中央区・元町六丁目商店街) ②ときわんノエスタ・てらこやノエスタ(神戸市兵庫区・ノエビスタジアム神戸) ③ときわんクニツカ・てらこや(神戸市長田区・アスタくにづか4番館) ④あかしフリースペース トロッコ(明石市)</p> <p>&lt;開催時期&gt; 2024年5月下旬～2025年3月(予定)</p> <p>&lt;募集対象&gt; 加盟校学生 ※団体・個人問わず</p>	<p>◆地域の「子育て支援拠点」や「子どもの居場所」での学生ボランティア活動</p> <p>公益財団法人日本財団ボランティアセンターとの共催事業として実施している。 (協力:公益財団法人B&amp;G財団、あかしフリースペース トロッコ)</p> <p>(活動報告) ・学生のボランティア活動 【開催時期】2024年6月～2025年3月 【申込・参加学生数】申込者11校28名、参加者5校14名(のべ人数) (参加者内訳)活動先・学生所属校・人数は以下の通り ①②③ときわん:6名 神戸学院大学(2)、神戸女子大学(1)、兵庫県立大学(1)、流通科学大学(2) ④トロッコ:8名 神戸学院大学(3)、兵庫県立大学(1)、兵庫大学(4) ※11月29日時点</p> <p>・学生振り返りワークショップ(予定) 子ども支援に関わる学生たち同士で自身の活動を振り返り、子ども支援に対する意見交換を行う。 【開催時期】2025年2月(予定) 【対象】①「地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動」にてこれまで活動したことがある学生②子ども支援に関わっている加盟校の学生</p> <p>(自己評価) 6月～11月の実施期間で28名の申し込みがあり、子どもに関わるボランティアへの学生のニーズは一定数ある。必要に応じて学生には個別相談を行い、学生のボランティア活動の第一歩を踏み出すきっかけを提供できている。しかし、施設の開所時間が平日の日中(土日休)のため、通常の授業期間中は学生のマッチングが難しく、授業等と重なる場合、参加できても1回限りとなる傾向がある。申込者全員が活動できれば達成目標への到達を見込めるが、実際に活動できた学生は団体参加1団体2名、個人参加11名の計13名であり、本プログラムの継続には改善が必要と考える。</p>	
達成目標に対する実績	参加学生数14名	
活動指標に対する実績	1団体2名参加、個人参加12名	
自己評価基準:対到達目標 ※	2	—
自己評価基準:対継続性 ※	2	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
1,010,000円	56,446円	953,534円		
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	------------------------------------------------------------	------------------	----------------------------------------------------------------------------

【2024年度 学生交流委員会 事業計画(③取組1-2)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加学生数10名以上
課題を解決する取組概要	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>②「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 (正式名:ナガセケムテックスプレゼンツ 「ヴィクトリーナ姫路・大学コンソーシアムひょうご神戸 スポーツビジネスコンテスト」)
活動指標	参加学生のチーム活動/月1回以上(活動期間中)

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆ナガセケムテックスプレゼンツ「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」            地域の活性化に資する人材育成のためのプログラムとして、地域スポーツ振興をテーマに企画実施する。</p> <p>&lt;内容&gt;            姫路を拠点に活動するプロバレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」が抱える事業課題について、ゼミ単位もしくは大学の垣根を越えて構成した学生プロジェクトチームで、課題解決につながる企画を立案。ヴィクトリーナ姫路へのプレゼンテーションを経て、その企画を学生が主体となってホームゲームで実施し、その効果を検証する。</p> <p>学生にとっては、大学講義等で学んだことを実践する機会となり、深みのある学びが期待できる。また、本事業を通じて、社会人として求められるスキルであるマーケティング思考やプロジェクトマネジメントを習得するきっかけとする。</p> <p>&lt;活動期間&gt;2024年8月～2025年1月(予定)            &lt;募集対象&gt;加盟校学生・ゼミ</p>	<p>◆ナガセケムテックスプレゼンツ「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」</p> <p>(活動内容)            ・意見交換会(6/14):参加者11名(学生1名、教職員3名、企業5名、行政2名)            【チーム活動・期間・場所等】            1、オリエンテーション(9/23・兵庫国際交流会館):参加者57名(加盟校:学生39名、教職員6名、加盟校外:高校生2名、高校教職員2名、企業6名、行政2名)            2、企画実施準備(9/24～11/9)            3、実践に向けて課題提案(10/12・オンライン)            4、ホームゲーム現地視察(11/2・ウインク体育館):参加者22名            5、企画プレゼン大会(11/10・神戸常盤アリーナ):参加者62名(加盟校:学生42名、教職員6名、加盟校外:高校生4名、高校教職員2名、企業6名、行政2名)            6、企画実施(コンテスト期間中、チームごとに実践)            7、結果発表・表彰式(2025/1/18予定)</p> <p>【登録学生数】加盟校14校66名            (内訳)関西学院大学(1)、甲南大学(20)、神戸学院大学(9)、神戸芸術工科大学(1)、神戸国際大学(1)、神戸市外国語大学(1)、神戸松蔭女子学院大学(1)、神戸女学院大学(1)、神戸親和大学(6)、神戸常盤大学(1)、兵庫大学(4)、兵庫教育大学(1)、兵庫県立大学(4)、流通科学大学(15)            ※別途、兵庫県立姫路商業高校(2)オープン参加(コンテストの審査対象外での特別参加)            【参加者数】のべ130名(加盟校:学生82名、教職員15名、加盟校外:高校生6名、高校教職員4名、企業17名、行政6名)</p> <p>(自己評価)            3年目を迎えて本事業に注目した兵庫県(スポーツ課)が新たに共催者となり、社会的にも意義あるプログラムに発展した。企画時より連携体制と運営の充実を図り、活動指標・達成目標ともに到達し、当初計画通り事業を推進できている。しかし、次年度以降の事業継続について、兵庫県、共催・協賛企業より、兵庫県内・県外の非加盟校の学生に参加者枠を開放・拡大する要望が出ており、コンソ主催事業として事業を継続するには改善(検討)が必要であると考えます。</p>	
達成目標に対する実績	参加学生数82名	
活動指標に対する実績	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した	
自己評価基準:対到達目標 ※	4	—
自己評価基準:対継続性 ※	2	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
1,010,000円	56,446円	953,534円		
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	------------------------------------------------------------	------------------	----------------------------------------------------------------------------

【2024年度 学生交流委員会 事業計画(③取組1-3)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加学生数10名以上
課題を解決する取組概要	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>③兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪 関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携～
活動指標	参加学生のチーム活動/月1回以上(活動期間中)

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携について</p> <p>兵庫県では2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」に向けて「兵庫県万博推進室」を設置し、「ひょうごフィールドパビリオン」構想のもと、県内団体から「SDGs体験型地域プログラム」を公募して、関西に訪れる国内外の観光客を兵庫県に誘致する観光施策をスタートしている。</p> <p>学生交流委員会では「大阪・関西万博」を学生交流や学生の教育機会として位置づけ、自治体・企業・地域団体等と連携して、「兵庫県の大学生が兵庫県の魅力を自ら体感し、その魅力を発信する」取組を進める。</p> <p>【内容】昨年度より、兵庫五国(5地域10市)の「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型地域プログラム」を行政・団体等と連携しながら、学生が5チームに分かれてモニター体験を行ってきた。今年度は、学生たちが各地域での学修成果を、兵庫県立兵庫津ミュージアム(神戸市)の企画展「万博展」の企画の一つとして展示、成果発表を行う。ミュージアムの指導のもと、観光振興・地域貢献の観点から、学生が展示物を計画・制作し、会期中は、子ども向けのワークショップ等も展開予定。</p> <p>【活動期間】2024年4月1日～10月6日(予定) ①「兵庫の魅力」発信のための紹介パネル・映像等の企画・制作(5月～6月) ②「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型地域プログラム」課題解決プラン・プレゼンテーション(8月31日) ③兵庫県立兵庫津ミュージアム「万博展」での学生プロジェクト成果展示(7月20日～9月23日) ④最終報告会(10月6日)</p> <p>【対象エリア】兵庫五国(5エリア) ・摂津(尼崎市・川西市) ・播磨(多可町・西脇市) ・但馬(豊岡市) ・丹波(丹波市・丹波篠山市) ・淡路(淡路市・南あわじ市)</p> <p>【共催】兵庫県立兵庫津ミュージアム</p>	<p>◆兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携について</p> <p>(活動内容) 1、「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型プログラム」学生モニター体験ツアー 【開催日(訪問先)・参加者数】 ①2024年4月1日(摂津)・23名(学生10名、教職員2名、企業3名、行政・団体8名) ②2024年4月5日(淡路)・20名(学生3名、企業5名、行政・団体12名) ③4月14日(西脇)・8名(学生2名、企業6名) 計51名(学生15名、教職員2名、企業14名、行政・団体20名)</p> <p>2、兵庫津ミュージアムの企画展「未来へつなごう！万博展—その歴史とひょうごフィールドパビリオン」(以下「万博展」) 【期間】2024年6月2日(日)～9月15日(日) 【場所】兵庫県立兵庫津ミュージアム(神戸市兵庫区中之島2丁目2-1)ほか 【参加者】総計190名(のべ人数):(学生11校61名、教職員5校5名、企業9名、団体・行政19名、一般96名) 【参加学生のチーム活動】 1)展示制作ワーク(6/2・16・30、7/7・14、8/18の計6回):計59名 2)運営学生のInstagram広報活動:14投稿 3)「万博展」開会式・内覧会(7/19)・展示見学会(7/20):計5名 5)「ひょうごフィールドパビリオン体験ワークショップ」:第1回(9/14):計41名(学生4名、教職員3名、一般34名)、第2回(9/15):計40名(学生4名、教職員1名、一般35名) 6)学生フォーラム「ひょうご五国の魅力体験」(9/15・台風のため当初予定8/31を延期開催):計45名(学生10名、企業・団体8名、一般27名)</p> <p>(自己評価) 2025年大阪・関西万博を契機に、産官学連携の学生交流プロジェクトとして本取組を2か年にかけて、当初計画通り実施することができた。活動目標・達成目標ともに到達しており、学生が自ら発見した兵庫の魅力を発信する体験を通じて、地域で活躍、貢献する人材の育成に寄与できたと考える。</p>	
達成目標に対する実績	参加学生数61名	
活動指標に対する実績	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した	
自己評価基準:対到達目標 ※	4	—
自己評価基準:対継続性 ※	3	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
1,010,000円	56,446円	953,534円		
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※ 自己評価基準:対到達目標

4:当初計画を上回って達成  
3:当初計画を達成  
2:当初計画をやや下回った  
1:当初計画を下回った

※

自己評価基準:対継続性

4:本プログラムは継続すべき  
3:本プログラムは継続しても良い  
2:本プログラムの継続には改善が必要  
1:本プログラムは中止すべき

【2024年度 学生交流委員会 事業計画(③取組2-2)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加加盟校数10校以上/年
課題を解決する取組概要	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施 学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」
活動指標	個人参加15名以上

計画(8月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 (兵庫県危機管理部防災支援課受託事業) *6月理事会承認</p> <p>【受託期間】2024年8月1日～2025年10月31日</p> <p>【目的】 阪神淡路大震災30年の節目を迎えるにあたり、震災の風化を防ぎ、次世代に震災の経験と教訓を繋いでいくことを目的としている。</p> <p>【内容】 震災を知らない若者が、震災から学び、教訓として次世代に何を伝えていくかをテーマに、調査や取材による動画制作とSNS等での発信を通して、若者の視点で防災・減災啓発における情報を、地域社会に伝えていく。コンソは加盟校から参画学生を広く募集し、チームの立ち上げ、活動を支援する。学生の教育的観点からは震災を主体的に深く学び、創作意欲や協調性の醸成、活動は地域の防災意識の向上や活性化に繋がる取組みであり、広報(ブランディング)活動の一環ともなる。</p> <p>【スケジュール】 ●募集期間: 9月初旬～30日</p> <p>●防災・減災啓発動画制作・配信 活動期間: 2024年10月～2025年2月末 10月初旬: 全体会議(キックオフ) ～11月中旬: 台本作成・完成、調査、取材など 班別に活動 ～12月中旬: 撮影シーンの確定 (全体会議は計3回予定) ～1月中旬: 撮影実施 ～2月末: 完成動画の公開予定 (HP、SNSなどでの発信) *2025年開催の大阪関西万博 ひょうごEXPO week 「災害からの創造的復興」での上映も検討中</p> <p>●防災・減災啓発情報のSNS等での発信 活動期間: 2024年11月(予定)～2025年10月末</p>	<p>◆若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」</p> <p>●防災・減災啓発動画制作・配信 【参加学生数】6校11名 ・関西学院大学(4)・甲南大学(2) ・神戸学院大学(1)・神戸松蔭女子学院大学(2) ・神戸親和大学(1)・兵庫県立大学(1)</p> <p>(活動内容) ① 第1回全体会議(キックオフ)実施 【開催日】2024年10月12日 【会場】兵庫国際交流会館2F 研修室1 【参加者】11名(兵庫県危機管理部防災支援課1名、企業1名、学生9名) 3班に分かれテーマ別に3本の動画作成する。 ② 第2回全体会議 【開催日】2024年11月5日 【会場】兵庫国際交流会館1F ナダコムステーション 作成台本案について意見交換 ③ 第3回全体会議 12月2日開催予定 ④ 被災地ワークショップ研修(能登半島 調査・ボランティア 1月中旬 詳細計画中) ⑤ 動画公開: 2月末予定</p> <p>●防災・減災啓発情報のSNS等での発信 活動予定: 2025年1月～2025年10月末</p> <p>(自己評価) 学生目線の分かりやすい防災動画制作すべく、各班ごとにWEB会議、台本作成等の活動を行った。学生が自ら大震災を学び、その教訓を捉え次世代にメッセージを繋げると共に、主体的な創作や仲間との協調性を育む新たな交流、教育機会ともなっている。来年2月末の動画完成後の大阪・関西万博会場での上映を見据えて活動を進めている。 8月に受託事業の計画が変更され、募集期間が短くなったこと等により、現時点では活動指標・達成目標は計画をやや下回っているが、震災の教訓や防災・減災への学生の関心を高めるべく、SNS情報発信活動において、学生の参加募集を行い、本事業のさらなる充実を図る予定である。</p>	
達成目標に対する実績	参加加盟校数: 6校	
活動指標に対する実績	個人参加11名	
自己評価基準: 対到達目標 ※	3	—
自己評価基準: 対継続性 ※	4	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
9,730,900円	2,339,972円	7,390,928円		
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※ 4:当初計画を上回って達成  
3:当初計画を達成  
2:当初計画をやや下回った  
1:当初計画を下回った

※ 自己評価基準: 対継続性

4:本プログラムは継続すべき  
3:本プログラムは継続しても良い  
2:本プログラムの継続には改善が必要  
1:本プログラムは中止すべき



【2024年度 学生交流委員会 事業計画(③取組2-1)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	情報公開数200取組以上
課題を解決する取組概要	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施
活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介</p> <p>大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開する。また必要に応じて、様々なメディア等への告知を検討・計画する。</p> <p>&lt;内容&gt; 加盟校からの情報提供をもとに、地域で若者が活躍する姿を周知することにより、加盟校による地域の活性化のための貢献活動に取り組む。</p>	<p>◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介</p> <p>(活動内容) 加盟校からの情報提供をもとに、大学コンソーシアムひょうご神戸HP上からもリンクされた「note」に「地域で輝く学生」と題した読み物記事の連載を行っている。通年で、地域で学生が活躍する姿を広く周知している。</p> <p>【掲載実績】9校20取組 ※11月29日時点</p> <p>(自己評価) 中長期計画Ⅱ期(5か年)の達成目標である「情報公開数200取組以上」を目指して、本年度は委員校が1校あたり2取組を今年度内に掲出する計画を立てて、活動しており、活動指標・達成目標ともに到達する予定である。 学生の活動内容が多様であるため、各校において情報の取捨選択が難しい場合があるが、地域人材として学生が重要な役割を果たしていることを広く社会に周知することは、大学が取り組む地域貢献の理解促進に寄与する観点から、本プログラムは継続しても良いと考える。</p>	
達成目標に対する実績	73取組 ※11月29日時点	
活動指標に対する実績	20取組(年内40取組掲載予定)	
自己評価基準:対到達目標 ※	2	—
自己評価基準:対継続性 ※	3	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
240,000円	15,700円	224,300円		
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※	自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
---	------------------------------------------------------------	---	-------------	----------------------------------------------------------------------------

# 地域の子育て支援拠点・ 子どもの居場所で活動しよう！

## ◇参加学生募集◇

### 学生交流委員会「WILL BEプロジェクト」

子どもとの関わりを通して、地域に貢献！  
ボランティア活動を通して、自分の成長や学びも深まります。  
他大学の学生とつながるチャンスもありますよ♪

#### 活動場所

(神戸市内「地域子育て支援拠点」)

- ◇神戸市長田区：ときわんクニヅカ
- ◇神戸市中央区：ときわんモトロク
- ◇神戸市兵庫区：ときわんノエスタ

※開園時間10:00~16:00 (お昼休み有)

- ◇明石市：あかしフリースペース☆トロッコ

※開園時間9:00~17:00

#### 最寄り駅

JR「新長田」

阪神「西元町」・阪急「花隈」

地下鉄「御崎公園」「和田岬」

ときわん



トロッコ



#### 募集期間・活動日時

## ◎毎月募集中！

ボランティア申込はこちら▶▶▶

応募学生と個別で日程等の調整をします。

※参加は1回から。週1回~複数回の参加など希望を考慮します

※活動期間は2025年3月まで ※交通費支給あり



#### 参加資格

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の学生  
\*学部・学科・学年は問いません

主催・問い合わせ 一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

メール [info@consortium-hyogo.jp](mailto:info@consortium-hyogo.jp)

電話 078-271-0233 (9:00~17:00)

共催 公益財団法人日本財団ボランティアセンター



大学コンソーシアム  
ひょうご神戸  
加盟校一覧

## &lt;WILL BE プロジェクト&gt;①

地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動

学生振り返りワークショップ 企画書(案)

## 1、実施目的

子ども支援に関わる学生たち同士で自身の活動を振り返りながら、子ども支援に対しての意見交換を目的とする。また、活動報告・ワークショップ形式にすることで、参加者が自ら参加し学びあう機会を醸成する。

## 2、実施内容

実施候補日:2月15日(土)もしくは16日(日)の14時~17時

テーマ:子ども支援

実施方法:講演+ワークショップ(予定)

議題:詳細については学生ヒアリングの後決定

## 3、参加対象

①「地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動」にてこれまで活動したことがある学生

②子ども支援に関わっている加盟校の学生

以上

2024年度 学生交流委員会「WILL BE プロジェクト」ナガセケムテックス株式会社 Presents  
「ヴィクトリーナ姫路×大学コンソーシアムひょうご神戸」意見交換会

1. 日時:2024年6月14日(金)14:00~17:00
2. 場所:兵庫国際交流会館 ナダコムステーション(神戸市中央区脇浜町 1-2-8)
3. 参加者:総計 11名  
大学…3校 3名(教員)  
(内訳)神戸学院大学(1)・神戸親和大学(1)・流通科学大学(1)  
大学…1校 1名(学生)  
(内訳)兵庫県立大学(1)  
企業…3社 5名  
(内訳)株式会社姫路ヴィクトリーナ(2)・ナガセケムテックス株式会社(2)・株式会社立成社(1)  
行政…2名  
(内訳)兵庫県スポーツ課(2)

#### 4. 開催趣旨

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期(2022年~2026年)における取組課題「地域の活性化に資する人材育成のための連携」に向けて、「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」に取り組む。その活動の一つとして、テーマ型の学生プロジェクト(通称:WILL BE プロジェクト)「ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト」を2022年度からの継続事業として実施する。

今年度事業を立ち上げるに際して、共催・協賛の企業関係者と加盟校教員が昨年度の経験をふまえて意見交換会を開催した。参加学生募集に際して、当日の意見交換会の内容を大学コンソーシアムひょうご神戸と協賛企業のホームページ上で情報発信することで、本プロジェクトの開催意義について、広く大学関係者の理解促進を図ることも目的とした。

※参照:大学コンソーシアムひょうご神戸 note 掲載記事【今年も開催!】~兵庫の大学生による WILL BE プロジェクトナガセケムテックス株式会社 presents~「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」に迫る! <https://note.com/consohyogo/n/n6d2cf31df7ca>



#### <出席者>

株式会社姫路ヴィクトリーナ 代表取締役社長	上原 光徳
株式会社姫路ヴィクトリーナ 法人営業部	今別府 彩乃
ナガセケムテックス株式会社 経営企画本部本部長	山本 兼士
ナガセケムテックス株式会社 経営企画本部 サステナビリティ推進室	木下 仁人
神戸学院大学 経営学部 経営学科	柳 久恒
神戸親和大学 教育学部スポーツ教育学科	高松 祥平
流通科学大学 人間社会学部 人間健康学科	山口 志郎
株式会社立成社 アドバイザー	武田 隼
一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 事務局長	山崎 智佳子
一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 マネージャー	中水 かおる

#### <オブザーバー>

兵庫県スポーツ振興課 主幹調整担当	上田 レスリー利恵
兵庫県スポーツ振興課 主任	小林 千紗

## 5. 内容詳細

意見交換会のテーマは、主催者・協賛社、昨年度にゼミ参加した加盟校教員間で、本事業に対する参加の理由や考え方を共有すること、今年度のスポーツビジネスコンテストに期待することとした。具体的には、「学生参加の意義、学生の成長、学生企画に期待することを中心に意見交換が行われた。



意見交換会の様子

### (1)開催意義について

開催意義については、「スポーツビジネスコンテスト」は、学生たちに実践的な学びの場を提供し、成長を促す重要な機会となっている点において、意見が一致した。その大きな理由として、企画提案で終わる他のコンテストと異なり、プロスポーツ現場で実際に企画を実行する点が挙げられた。

### (2)大学教員が重視する点について

大学教員からは、実施期間が長期間(5~6ヶ月)にわたるため、学生がゲーム内での意見の対立や課題を乗り越えながら成長することが求められ、社会人としての振る舞いやチーム内での調整力を養う貴重な機会である点が評価された。流通科学大学の山口教授は「長期間の開催が学生の成長を促し、衝突や問題解決が学びに繋がる」と述べ、神戸親和大学の高松教授は「社会人マナーを学べる点



流通科学大学 山口先生



姫路ヴィクトリーナ 上原氏

が良い機会」である点を強調された。神戸学院大学の柳教授は、学生同士の経験の共有を促す環境作りの重要性について指摘があった。

### (3)共催者・協賛社における価値

共催者のヴィクトリーナ姫路は、学生たちの斬新なアイデアを期待しており、コンテストが球団側においてもファンとの交流の場としての価値を持つと語った。協賛企業であるナガセケムテックス株式会社は、学生の成長を見守ることに喜びを感じ、地域社会への貢献としても意義を述べた。最後に、本会にオブザーバーとして参加していた兵庫県スポーツ課より、今年度事業の共催の可能性について相談があり、兵庫県・共催・協賛者間で検討することとなった。



神戸親和大学 高松先生



ナガセケムテックス 山本氏



神戸学院大学 柳先生

以上

「ヴィクトリーナ姫路×大学コンソーシアムひょうご神戸  
スポーツビジネスコンテスト オリエンテーション」報告書

主催：一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸  
共催：株式会社姫路ヴィクトリーナ・株式会社立成社・兵庫県  
協賛：ナガセケムテックス株式会社

1. 日時：2024年9月23日（月・祝）14:00～17:00

2. 場所：兵庫国際交流会館 3階多目的ホール

3. 対象：加盟校学生（大学ゼミ応募、個人応募者）

4. 参加者：総計 57 名

大学…12校 39名（学生）

（内訳）関西学院大学(1)・甲南大学(12)・神戸学院大学(8)・神戸国際大学(1)・  
神戸市外国語大学(1)・神戸松蔭女子学院大学(1)・神戸女学院大学(1)・神戸親和大学(5)・  
兵庫大学(2)・兵庫教育大学(1)・兵庫県立大学(3)・流通科学大学(3)

高校…1校 2名（学生）

（内訳）兵庫県立姫路商業高校(2)

大学…5校 6名（教職員）

（内訳）甲南大学(1)・神戸学院大学(1)・神戸親和大学(1)・兵庫大学(2)・流通科学大学(1)

高校…1校 2名（教職員）

（内訳）兵庫県立姫路商業高校(2)

企業・団体…3団体 6名

（内訳）株式会社姫路ヴィクトリーナ(2)・ナガセケムテックス株式会社(3)・株式会社立成社(1)

行政…2名

（内訳）兵庫県スポーツ課(2)

## 5. 開催趣旨

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期（2022年～2026年）における取組課題「地域の活性化に資する人材育成のための連携」に向けて、「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」に取り組む。その活動の一つとして、テーマ型の学生プロジェクト（通称：WILL BE プロジェクト）「ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト」を2022年度からの継続事業として実施する。学生募集はコンテスト参加者とコンテスト運営学生の2つの参加方法にて行い、コンテスト参加学生は大学ゼミ・グループ単位での参加と個人での参加による大学混合チームで企画・実践に取り組む。今回のオリエンテーションは、参加学生が初めて集い、本事業の趣旨説明とヴィクトリーナ姫路からの課題提案を受けて、取組課題の検討を行った。翌年1月18日の実践報告会までの約4か月のプロジェクトのスタートとなる。



## 6. プログラム

14:00-14:30 …開会・主催者・協賛社紹介

挨拶・団体紹介 一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸事務局 中水かおる  
 協賛社挨拶・企業紹介 ナガセケムテックス株式会社  
 経営企画本部 本部長 山本兼士

14:20-15:00…コンテスト概要説明

事務局・株式会社立成社 アドバイザー 武田隼  
 ヴィクトリーナ姫路 事業課題発表  
 株式会社姫路ヴィクトリーナ 代表取締役社長 上原光徳



ナガセケムテックス・山本氏

15:00-15:10…休憩

15:10-15:30…昨年度の参加学生による発表

15:30-16:00…学生チーム別：グループ協議

- ・チームリーダー・チーム名の検討・取組課題の検討、課題への質疑
- ・取組課題とその理由・自己紹介

16:00-16:50…学生交流

16:50-17:00 閉会の挨拶

ナガセケムテックス株式会社 経営企画本部 本部長 山本兼士



姫路ヴィクトリーナ 上原氏

## 7. 内容詳細

まず、主催者として、株式会社姫路ヴィクトリーナ・大学コンソーシアムひょうご神戸・立成社と新たに共催に加わった兵庫県の4者、協賛社のナガセケムテックス株式会社より挨拶・事業紹介を行った。続いて、コンテスト事務局の立成社より、約4か月間のコンテスト概要に関する説明があった後、株式会社姫路ヴィクトリーナの上原代表取締役より、今年度の6つの事業課題が発表された。また、新たな試みとして、昨年度の参加した先輩学生（現在社会人1年目）が登壇し、コンテストで自身が学んだこと、経験談を語る時間を設けた。概要を理解した後、学生はゼミ単位もしくは、大学混成チームに分かれて、現時点で取り組みたい課題とチームリーダーを決定・発表した。※詳細は以下の表参照

その後、運営学生スタッフ企画として、「学生交流会」を実施。相互インタビューを行う「ペアワーク」や、多人数で楽しめるレクレーションを全員で行い、楽しく交流した。コンテストで競い合うだけでなく、大学の枠を超えての学生交流からも、視野が広がる関係づくりも企図する。

### 8 チームの取組課題（9月23日時点）

No	設定課題	チーム
課題1	集客	甲南大学
課題2	アプリ登録者数の増加	大学混成チーム
課題3	シャトルバスを活用した駐車場施策	神戸親和大学、兵庫大学、姫路商業高校
課題4	アカデミー生の募集	流通科学大学
課題5	スポンサー/後援会の従業員のファン化	—
課題6	8市8町との取組（地域課題解決）	神戸学院大学
未定	—	流通科学大学

## 8. 参加者の感想と考察

参加者へのアンケートの回答において、「オリエンテーションはいかがでしたか」の質問には、「ヴィクトリーナ姫路の現状等に関して知れたこと」や「課題について具体的に知ることができた」「課題に選択肢があったこと」を良かったと受け止めた学生がいた。

また、今年度から新たに先輩学生の体験談を紹介する時間を設け、昨年度の本コンテストで最優秀賞を受賞し、現在社会人1年目を迎えている神戸学院大学チーム「百UP」4名がオンラインで参加し、プロジェクトを進める心構えや工夫したこと、計画の立て方などを具体的に紹介した。参加学生からは「課題発表だけでなく、実際に行った先輩の意見を聞けたからよかった」と、不安な点を解消し、前向きに取り組む意欲につながっているコメントもあった。

「本コンテストへの参加を通じて、どんなことを学びたい、経験したいと考えていますか？」との質問には、「ビジネスマナーからビジネス的な思考法まで、幅広いの知識を学びたい。チームでの活動を通して、役割を担う経験をしたい」「社会において色々な場面で総合的に活躍できる人になりたい」「チームで協力することの大切さを学びたい」「恥ずかしがらず、多くの人の中で意見を言う経験をしたい」などの声があった。自分の役割や責任を意識して、人との関わりの中で成長することを期待している学生が少なくなかった。

### 【当日の写真】



オリエンテーション会場の様子



昨年度の最優秀賞チームの体験談を聴く学生



オリエンテーション終了後に集合写真



運営学生スタッフが「学生交流会」の進行を担当

以上



学生交流委員会「WILL BE プロジェクト」「大学コンソーシアムひょうご神戸×兵庫津ミュージアム  
2023年度～2024年度 兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project『現地モニターツアー』」報告書

共催：一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸  
兵庫県立兵庫津ミュージアム

1. 期間：①現地モニターツアー：2024年3月15日（日）～4月14日（日）の間（6日間）  
②説明会・事前講習会：2024年2月27日（火）～3月12日（火）の間（4日間）
2. 場所：①現地モニターツアー：兵庫県認定「ひょうごフィールドパビリオン（SDGs 体験型地域プログラム）」を実施する県内5地域の9市町。※個別の訪問先は「7. 内容詳細」参照  
④「播磨」多可町・西脇市、⑤「但馬」豊岡市、⑥「丹波」丹波市・丹波篠山市、  
⑦「摂津」尼崎市・川西市、⑧「淡路」淡路市・南あわじ市）
3. 対象：大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校学生・教職員
4. 参加者：総計116名（のべ人数）

学生…9校54名

（加盟校内訳）甲南大学(2)・神戸大学(3)・神戸海星女子学院大学(1)・神戸学院大学(2)・  
神戸芸術工科大学(1)・神戸女学院大学(11)・神戸常盤大学(4)・兵庫県立大学(6)・  
流通科学大学(24)

教職員…大学1校5名

（内訳）流通科学大学(5)

企業・団体…57名

（内訳）現地ツアー参加者数：総計72名

④3/15（金）播磨 参加者：7名（学生4名、企業・団体3名）

⑤3/19（火）但馬 参加者：7名（学生4名、企業・団体3名）

⑥3/27（水）丹波 参加者：7名（学生3名、企業・団体4名）

⑦4/1（月）摂津 参加者：23名（学生10名、教職員2名、企業3名・団体8名）

⑧4/5（金）淡路 参加者：20名（学生3名、企業5名・団体12名）

⑨4/14（日）播磨 参加者：8名（学生2名、企業6名）

（内訳）説明会参加者数：総計18名

①2/27（火）参加者：6名（学生4名、企業・団体2名）

②2/28（水）参加者：12名（学生8名、教職員1名、企業・団体3名）

（内訳）事前講習会参加者数：総計26名

①3/5（火）参加者：11名（学生7名、企業・団体4名）

②3/12（火）参加者：15名（学生9名、教職員2名、企業・団体4名）

## 5. 開催趣旨

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の学生たちが元気になる学生交流活動として、2025年大阪・関西万博と連動して、兵庫県内企業・団体とともに兵庫の魅力を発見・発信する産官学連携による学生交流プロジェクト「兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project」と題した企画を実施する。

## 6. プログラム

兵庫県が大阪・関西万博の開催を契機に、大学コンソーシアムひょうご神戸と兵庫津ミュージアムが連携して、関西を訪れる国内外の観光客に対する観光施策「ひょうごフィールドパビリオン SDGs 体験型プログラム」に関して、学生モニターツアー体験を開催。5チームに分かれて県内5地域（9市町）に訪問した学生が各地で企画展開中のプログラムに参加した。地域の方々との意見交換や体験を通じて、学生が実感した兵庫の魅力を兵庫津ミュージアムの「万博展（仮称）」にて、2024年7月20日（土）～9月23日（祝・月）の会期中、展示作品として成果発表する予定である。

## 7. 内容詳細

兵庫県が認定する「ひょうごフィールドパビリオン」の「SDGs 体験型プログラム」のモニターツアーに学生計26名が参加した。日程と訪問地域、プログラムと地域の協力先は以下の通り。

	日付	地域	地域	プログラム	協力先
①	3/15	播磨	多可町	多可の森健康ウォーキングと 播州織オープンファクトリー	多可の森健康協会、 株式会社ソーイング竹内
②	3/19	但馬	豊岡市	にっこり体験/野菜収穫体験+農業体験	Veggie de +
				野生復帰したコウノトリが教える地域 環境づくり	兵庫県立コウノトリの郷公園
③	3/27	丹波	丹波市	Good Experience! 兵庫丹波	丹波サイクリング協会
			丹波篠山市	「日本六古窯」丹波焼の里を訪ねる	丹波立杭陶磁器協同組合
④	4/1	摂津	尼崎市	尼崎運河クルーズツアー	あまがさき観光局、武庫川渡船
			川西市	「日本一の里山」を巡るウォーキングツ アー	NPO 法人北摂里山文化保存会、 徳林寺
⑤	4/5	淡路	淡路市	香りの島 お香づくり体験&工場見学ツ アー	兵庫県線香協同組合
			南あわじ市	南あわじ市の日本農業遺産を未来につ なげよう	サザンバード
			南あわじ市	慶野松原—来て・見て・学んで・楽しも う—	淡路島・慶野松原根上がり隊
⑥	4/14	播磨	西脇市	新発見! デザイナーtamaki niime によ る播州織のものづくり体験	有限会社玉木新雌

## 8. 参加者の感想と考察

参加者アンケートでは、「働いている人が生き生きと仕事をしていらしたのが一番印象に残った」「見学では実際に作業をしている工場に入って、職人さんの活き活きとした姿を見て、単に工場勤務で物品を生産し続けているのではなく、播州織を活用した作品を作っているのだと感ずることができた」など、地域で働く人の仕事観に関心が高まる特長があった。将来の進路や生き方を模索している大学生にとっては、地元で働く人の魅力や職業に関する視野も広げる機会となっていた。

また、「周辺地域がどんどん住民が減少していく過疎地域だという事は認識しているが、はたしてそこ

で地域住民が地域おこしや市の存続を望んでいるのかが今回だけでは十分に判断することができなかった」と、観光振興を考えるうえで地域住民の視点を大事に考える気づきも生まれていた。

今後は、学生たちは、2024年7月20日～9月23日に行われる兵庫津ミュージアムでの展示に向けて、ミュージアムの展示担当と連携しながら、展示パネルや映像等の制作活動に取り掛かる予定。学生が体験した兵庫県の魅力を学生自身が伝える場を創造する。

#### 【参加学生のふりかえり回答より抜粋】

##### 【淡路】

- 先代の方々が新たな商機を見つけるため、様々な行動に移していたことに対して、リスペクトの心を持たれて、受け継いだものを守っていこうとしているところがよかった。
- 分からないことを分からないで終わらせるのではなく、直接聴いて常に学ぶ姿勢が印象に残った。
- 淡路島にはよく行くので、わかった気でしたが、淡路島の線香が日本一など、全然知らない事だらけだったのでとても楽しかった。

##### 【西脇】

- 働いている人が生き生きと仕事をしていらしたのが一番印象に残った。
- 外国の方が好みそうな体験内容だと感じた。

##### 【丹波】

- 学びを得ることはもちろんですが、その前に自分たちが心から楽しめる内容だったことがよかった。地域の方は皆さん優しく迎え入れてくださり、色々な質問に答えてくださった姿に感動しました。一番感じたことは、体験プログラム自体に問題があるのではなく、それらが認知されていないことが課題だということ。認知を伸ばすことを主に考え、解決策を生み出していければいいなと感じました。

##### 【摂津】

- 歩くのは疲れたけれど、里山には沢山の木が植えられていて、それらを切ってまた何年かしてまた成長していくという過程を説明して頂き知ることが出来たのがよかった。
- フィッシュシェアリングは、持続可能な漁業を促進し、漁業資源の保護に貢献する素晴らしい取り組みです。地域コミュニティによって支持され、漁師や消費者の間で良好な関係を築くことができると思った。
- 特に印象的だったのは、地元のガイドから学んだ植物の生態についての知識です。自然の中を歩きながら、その豊かさや繊細さを改めて感じることができました。

##### 【但馬】

- 野菜が普段食べるものとは違いみずみずしい！！
- 収穫は祖父母の家でする機会があったが、それを商品として出せるところまでの工程をすることが出来て改めて取って終わりではないんだなと思いました
- 普段あまり行かない但馬という場所で普段はしない野菜の収穫やコウノトリの餌作りなどの特別な体験をすることが出来非常に楽しかった。

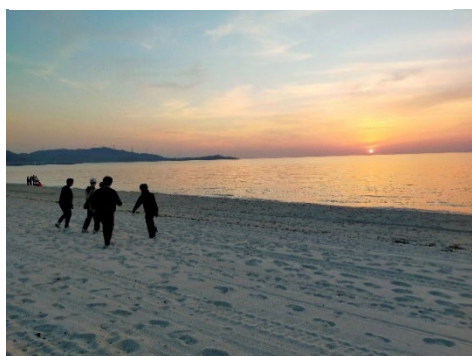
【当日の写真】



(豊岡) 野菜の収穫体験



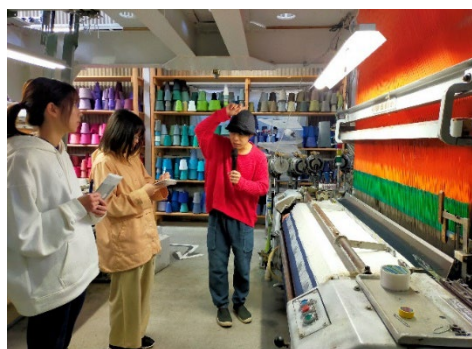
(淡路) 根上がり松の観察



(淡路) 日本夕日百選



(多可町) 播州織の工場を見学



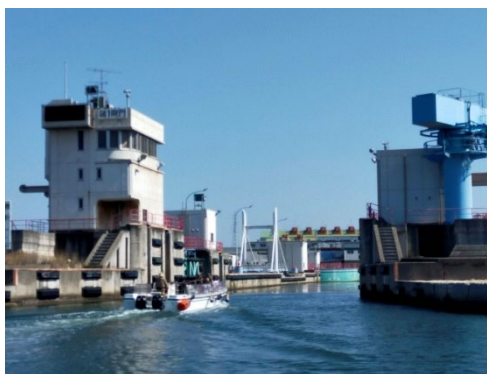
(西脇市) 播州織の工場見学



(多可町) コウノトリの郷公園



(丹波) 丹波焼の陶芸体験



(摂津) 防潮堤「尼ロック」を見学

以上

学生交流委員会「WILL BE プロジェクト」「大学コンソーシアムひょうご神戸×兵庫津ミュージアム

2024年度“兵庫の魅力” Student Treasure Hunt Project

『未来へつなごう！万博展—その歴史とひょうごフィールドパビリオン』報告書

共催：一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸  
兵庫県立兵庫津ミュージアム

1. 期間：2024年6月2日(日)～2024年9月15日(日)
2. 場所：兵庫県立兵庫津ミュージアム（神戸市兵庫区中之島2丁目2-1）ほか
3. 対象：大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校学生・教職員・一般の方
4. 参加者：総計190名（のべ人数）

加盟校…66名

学生…11校61名

（内訳）大手前大学(5)・関西学院大学(1)・甲南大学(5)・神戸大学(1)・神戸海星女子学院大学(2)・  
神戸芸術工科大学(3)・神戸国際大学(1)・神戸女学院大学(10)・神戸常盤大学(6)・兵庫県立大学(7)・  
流通科学大学(20)

教職員…5校5名

（内訳）大手前大学(1)・大手前短期大学(1)・神戸松蔭女子学院大学(1)・流通科学大学(1)・兵庫大学(1)

企業…9名 団体・行政…19名 一般…96名

#### 5. 開催趣旨

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の学生たちが元気になる学生交流活動として、2025年大阪・関西万博を契機に、産官学連携の学生交流プロジェクト「“兵庫の魅力” Student Treasure Hunt Project」と題する取り組みを2023年度から2024年度にかけて継続的に展開した。地域の魅力を兵庫県の大学生が県内現地を訪れて、自ら発見した兵庫の魅力を発信する体験を通じて、次代を担う学生が地域に貢献し、地域で活躍する人材の育成につながる交流活動となることも目的とした。

#### 6. 活動内容

2024年3月から4月にかけて、大学コンソーシアムひょうご神戸と兵庫津ミュージアムが連携して、兵庫県が大阪・関西万博を契機として展開する観光施策「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型プログラム」を対象に、学生モニター体験ツアーを開催した。兵庫五国とよばれる県内5エリアを学生がチームに分かれて訪問、各地のプログラムに参加し、地元の人々との交流や意見交換を行なった。

ツアー後は、学生たちが自らの体験を通じて学び、発見した兵庫の魅力を兵庫津ミュージアムの企画展「未来へつなごう！万博展—その歴史とひょうごフィールドパビリオン」（以下「万博展」）における以下3つの活動(1)パネルと動画による展示作品の制作(2)展覧会場でのワークショップの開催(3)活動報告会「学生フォーラム」の開催において、広く一般の方々に向けて、兵庫の魅力を発信する活動を継続的に行なった。

## 7. 内容詳細

約3カ月間の「万博展」開催に伴い、継続的に以下1)～6)の活動に取り組んだ。

### 1) 展示制作ワーク……「万博展」での展示作品の制作・イベント準備を行った。

第1回～5回(6/2、6/16、6/30、7/7、7/14)：展示作品(パネル・動画)の制作に取り組んだ。

第6回(8/18)：学生フォーラム成果発表スライド制作・準備。

参加者：総計59名(学生39名、教職員1名、企業・団体19名)

### 2) 運営学生スタッフによるInstagramでの広報活動：14投稿

展示作品の案内やワークショップ等のイベント情報を学生が発信。

### 3) 「万博展」開会式・内覧会(7/19)への参加。

参加者：学生1名

### 4) 「万博展」展示見学会(7/20)を実施した。

参加者：総計4名(学生3名、企業・団体1名)

### 5) “兵庫の魅力” Student Treasure Hunt Project ひょうごフィールドパビリオン体験ワークショップ

展示期間中、学生がものづくり体験を通じて来館者に兵庫の魅力を伝えることを目的とするワークショップ(コウノトリの折り紙、播州織のはぎれを活用したコースターづくり、丹波大納言あずきを使ったゲーム)を展覧会場である兵庫津ミュージアムで開催した。

第1回(9/14)参加者：総計41名(学生4名、教職員3名、一般34名)

第2回(9/15)参加者：総計40名(学生4名、教職員1名、一般35名)

### 6) 学生フォーラム「ひょうご五国の魅力体験」(9/15・台風のため当初予定8/31を延期開催)

兵庫津ミュージアムの展示室を会場に、学生チームによるひょうご五国へのモニターツアーの体験内容と学生目線でとらえた地域の魅力について、広く一般の方向けに発表した。

参加者：総計45名(学生10名、企業・団体8名、一般27名)



動画を制作する学生たち

## 8. 参加者の感想と考察

学生のアンケート回答では、「地域が抱えている問題に詳しい現地の人と一緒に解決策(企画)を考える事ができ、新たな発見・視点が生まれた」「調べるだけでなく実際に現地に行き、自分の感じた事を発信していける事がプロジェクトとして面白いと思った」など、学生が座学だけでなく、実際に地域に出て体験する意義と現場から学ぶ意義を実感しているコメントが見受けられた。

「プロジェクトに参加する前と後で、自分自身に何か変化がありましたか?」や「今後の学生生活で、今回の経験をいかして心がけたいこと、挑戦してみたいこと」についての質問には、「参加する前は、自分の住んでいる地域ですら、『魅力とはなにか?』と聞かれた時に答えられなかった。けれど、参加後は他地域の発表を聞いて、兵庫の魅力を沢山知ることができた」「兵庫にある魅力を今後も発信していきたい」など、兵庫県全体への関心が高まっていることが窺えた。ほかに、「大学で観光学を専攻しているので、更なる学びにつなげたい」「人と人の出会い、文化や習慣なども勉強になった。今後、こういうプログラムがあれば参加したい」など、学修意欲の向上や異文化理解への効果を実感する者もいた。

ほかには「資料作りは普段は人任せにしてしまうが、自ら進んで取り組んだ初めての経験となった。今後の授業やグループワーク、就活に活かして積極的に取り組んでいきたい」「学校のように強制ではなく、自ら進んで活動に参加する事の楽しさを学べた」など、学生の主体的な学びの促進に寄与していた。

【活動写真】



「学生フォーラム」で体験を発表する学生



ひょうごフィールドパビリオンで活動する地域の方も登壇



来館者向けワークショップを学生が運営した



播州織を使ったワークショップを指導いただいた受  
入先企業の方（後列左）と運営学生ボランティア



兵庫津ミュージアムにて学生が運営したワークショップ（素材提供：兵庫県立コノトリの郷公園、ソーイング  
竹内、tamaki niime、丹波サイクリング協会）



兵庫津ミュージアム「万博展」の展示・イベント情報を運営学生ボランティアがSNSで発信した  
以上

## 【取組2】学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」について

## 1. 大学コンソーシアムひょうご神戸 note「地域で輝く学生」掲載状況(年度別・学校別)

※2024年11月現在、73取組/200取組

学生交流委員会 委員校	掲載校	2022	2023	2024	2022- 2024	累計 3か年
	明石工業高等専門学校		1		1	56
1	芦屋大学	2			2	
2・3	大手前大学・大手前短期大学				0	
4	関西国際大学	2			2	
	関西福祉大学				0	
5・6	関西学院大学・関西学院短期大学	3	1	2	6	
7	甲南大学		1		1	
8	甲南女子大学	1		3	4	
9	神戸大学	1			1	
	神戸医療未来大学				0	
10	神戸海星女子学院大学	2	1		3	
11	神戸学院大学	2	1	6	9	
	神戸芸術工科大学				0	
12	神戸国際大学			2	2	
13	神戸市看護大学			1	1	
14	神戸松蔭女子学院大学	2	2	2	6	
15	神戸女学院大学			1	1	
16・17	神戸女子大学・神戸女子短期大学	1	1	1	3	
18	神戸親和大学	1			1	
19	神戸常盤大学	1		2	3	
	神戸薬科大学		1		1	
20	頌栄短期大学				0	
21・22	園田学園女子大学・短期大学部	1			1	
	宝塚医療大学				0	
23	姫路大学	1			1	
24・25	兵庫大学・兵庫大学短期大学部	1	1		2	
	兵庫教育大学				0	
26	兵庫県立大学	2			2	
	芸術文化観光専門職大学		1		1	
27	流通科学大学		1		1	
-	姫路獨協大学	1			1	
-	大学コンソーシアムひょうご神戸	4	13		17	
	合計	28	25	20	73	73

## 2. 大学コンソーシアムひょうご神戸HP上「note」「地域で輝く学生」5か年掲載予定(記事数・案)

情報提供者	寄稿の流れ	2022	2023	2024	2025	2026	累計 5か年
大学主催の取組(学生交流委員校)	年2回情報提供(前期・後期)	24	8	52	52	52	188
大学主催の取組(非委員校)	コンソ事務局にて、依頼・受付	0	4	5	5	5	19
コンソ事業(コンソ事務局)	コンソ事務局にて、随時作成	4	13	5	5	5	32
合計(各年度)		28	25	62	62	62	239
合計(積算)		28	53	115	177	239	



## 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」(リメンバー117)

### 防災動画制作 第1回全体会議(キックオフ)報告書

主催：大学コンソーシアムひょうご神戸

1. 日時：2024年10月12日(土) 14:00~16:00
2. 場所：兵庫国際交流会館 研修室1室
3. 参加者：総計11名(学生9名、行政1、プロデューサー1)
  - ・参加学生：コンソ加盟校5大学9名(当日は2名欠席、全6大学11名のチーム\*)
  - \*9月募集により選考されたメンバー、所属・氏名他は次ページ表を参照
  - ・行政：兵庫県危機管理部 防災支援課 主幹 吉田哲也
  - ・プロデューサー：株式会社令和の軍師 代表取締役 諸富 稔  
(・事務局 大濱、大島(記))
  - ・報道関係者：(毎日新聞社)神戸市局 柴山雄太、(読売新聞)神戸総局 明石通信部 阿部健、(共同通信社)神戸市局 岩崎真夕、  
(時事通信社)神戸総局 大山雄三、鴨志田桃奈

#### 4. 背景(目的)

2025年に阪神・淡路大震災30年の節目を迎えるにあたり、震災の風化を防ぎ、震災を知らない若者がその教訓を次世代に繋ぐプロジェクトが兵庫県により企画された。当コンソは、その中で動画制作事業を県から受託し、これまでの様々な防災/支援活動に続き、学生交流事業として活動を開始する。

#### 5. 当日の進行概要

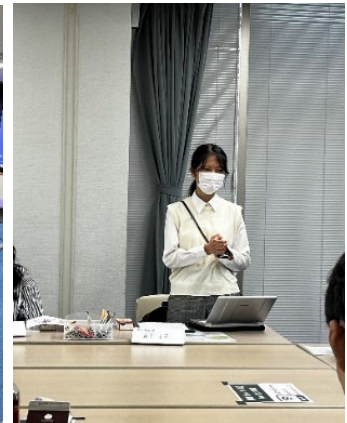
- (1) ご挨拶 県の防災事業、本プロジェクトの背景説明(吉田氏)
- (2) コンソ法人/事業紹介他(大島)、学生自己紹介(漢字一文字紹介)(大濱)
- (3) 発信内容の自由討議と項目決め、班分け、次回日程調整(諸富氏、学生メンバー)

#### 6. 学生による自由討議(14:30~16:00)

震災、防災について次世代に伝えたい内容や想いを学生自らが考え主体的に取り組んだ。

- (1) 各自が動画発信したい内容をGoogle Documentへ記入後、発表を行ない質疑応答した。
- (2) 諸富氏のリードで、近しい共通項を選び出し4つのグループに班分けを行った。
- (3) その発信項目(要素)と抽出したキーワードは次ページ表のとおり。

次回全体会議までに、班ごとに活動(調査・取材、ZOOM会議)し発信内容の構成と文章を作成することとした。動画は各班2~2.5分、トータル10分を目安とする。



【参加メンバーと共通項目による班分け（グループ）】

班	お名前	フリガナ	学校名/学部学科	自己表現	共通項目、キーワード
1 班	加藤 乙愛	カトウオトア	神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 心理学科	(参考まで) 挑	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆災害が起こる前の準備</li> <li>・非難の準備 (複数避難経路・場所)</li> <li>・地域や周囲との関係性 孤立回避</li> <li>◆災害発生時の行動</li> <li>・迅速な避難のために 心理的視点 危険回避</li> <li>◆若者ができること</li> </ul>
	渡邊 帆音	ワタナベ ホノン	関西学院大学 人間福祉学部 社会起業学科	真	
	福田 信三	フクダシンゾウ	甲南大学 リカレント履修科 人生100年時代の学び	運命	
2 班	緒方 香怜	オガタカレン	関西学院大学 生命環境学部 生物科学科	和	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆マイノリティの人に優しい 避難所づくり (障がい者、病人 外国人、子供、ペットなど)</li> <li>・インクルーシブ社会</li> <li>・やさしい日本語、表示</li> <li>・学習環境</li> <li>・平等なケア、サポート</li> <li>◆防災と女性の権利に関する 認知、啓発動画</li> <li>・混乱/ストレス回避</li> <li>◆防災意識の向上 全国へ発信</li> </ul>
	金子 実樹	カネコミキ	関西学院大学 法学部 政治学科	根	
3 班	角谷 胡桃	カクタニクルミ	関西学院大学 教育学部 初等教育学コース	桃	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆災害に対する危険意識を高める 日常の備え</li> <li>・意識を高め、災害グッズ・・・</li> <li>◆避難</li> <li>・パニック回避</li> <li>・学校での子供の安全</li> <li>◆避難所での危険、課題</li> <li>・身を本当に守れるか</li> <li>・プライバシーの保護</li> <li>・女性へのケア、配慮</li> <li>◆活かせる知識 (教訓)</li> <li>・未来への語り継ぎ</li> <li>・教科書より実際 (現実)</li> </ul>
	谷野 彩	タニノアイ	神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 心理学科	彩	
	工藤 彩花 (当日欠席)	クドウアヤカ	神戸親和大学 文学部 国際文化学科	彩	

4 班	濱崎 亮太	ハマサキリョウ	神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科	動	<b>◆阪神淡路大震災を知ってもらう</b> (未経験世代、忘れかけた人々) ・命の尊厳 ・適切な正しい知識(理解) ・どのように行動するか  <b>◆コミュニティの中での連携</b> ・地域と行政、国家の連携 重要性  <b>◆防災教育の充実</b> ・防災グッズ ・避難のあり方 ・防災のハードルを下げる
	武田 尚也	タケダナオヤ	兵庫県立大学理学部 理学部 物質科学	-	
	山室 怜 (当日欠席)	ヤマムロレイ	甲南大学 経営学部 経営学科	-	

## 7. 今後のスケジュール (決定)

全体会議：第2回 11月5日(火) 18:30～、第3回 12月2日(月) 18:30～  
 於：兵庫国際交流会館 1F ナダコム

### 概略スケジュール

※ 全体会議の間の期間は、班ごとに活動し台本やシーン(映像)などを決めていきます。LINEグループ、Zoomの活用、調査・取材など

初回キックオフ (全体会議1回目)	本日(10/12)	自己紹介、震災に抱く興味や関心を共有 発信項目決め、班分け
項目別台本作成	～10月末	項目ごとに台本(文章)作成、調査&取材
全体会議2回目	11/5 18:30～	各班との現状の共有&意見交換
各班の台本完成	～11月中旬	動画内ナレーションの台本完成
各班撮影シーン検討	～12月初旬	撮影シーン(流す映像)の検討
全体会議3回目	12/2 18:30～	各班との現状の共有&意見交換
撮影シーン確定	～12月中旬	撮影シーン(流す映像)の確定
撮影の実施	12/15～1/15	撮影の実施、指導(令和の軍師さん)
動画編集	1/15～2/15	動画編集(他機関から素材提供、選択など)
動画公開	2月末	完成動画の公開

## 8. 所感

- (1) 防災動画制作のキックオフは、能登半島地震(1月)や南海トラフ地震臨時情報(8月)が発表され、全国的に防災・備え・避難等への意識が高まっておりタイムリーな開催となった。報道関係も4社が来訪し、学生の発表や話し合う姿を熱心に聞き写真撮影していた。
- (2) 学生達はやや緊張あるも、自らの想いや発信したい項目・内容をGoogle Documentへ記入・発表を行ない、近しい共通項により4つのグループに班分けが行えた。「障がい者や病人、外国人などマイノリティの人に優しい避難所づくり」「女性の権利への認知」「日頃のコミュニティ連携」「若者にできること」など、示唆に富む内容が発表され印象に残った。今後の調査や情報整理、構成作りとブラッシュアップに期待したい。

以上

### 【防災動画制作の背景、経緯】補足

本プロジェクト（リメンバー117）は、2025年1月17日に阪神淡路大震災30年の節目を迎えるにあたり、兵庫県危機管理部にて事業企画された。震災の風化を防ぎ、震災を知らない若者が「震災から学び、次世代に教訓として何を次世代に伝えていくか」を主題とし、若者が参画するSNS制作と動画制作（配信）プログラムで構成される。当コンソは、これまでの災害ボランティア活動や昨年の防災学生ニュース（防災減災動画）に続く活動として、動画制作を兵庫県から受託し学生交流事業の一環として主催、推進する。（県の「ひょうご安全の日推進県民会議」（防災支援課が事務局）と8月に業務委託契約済み）

9月に加盟校学生を対象に参加を募集し、6大学11名の学生を選考した。新たな学びの創出の観点からは、自ら震災を学び、主体的にメッセージを考え台本・映像シーンを構成する、仲間との協調や動画制作プロセスをも学ぶ良い機会となる。また、HPやSNSなどへの発信により地域の防災減災活動の活性化や当コンソのブランディングにも貢献する。2025年の大阪関西万博での動画公開も検討していく。（ひょうごEXPO week「災害からの創造的復興」にて上映検討）

若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」  
 【被災地ワークショップ研修】 防災動画制作チーム

## 1. 目的

阪神・淡路大震災の教訓を繋ぐ動画制作と並行して、能登半島地震（豪雨災害後）の被害状況とボランティア支援を実際に体験し、防災を学び考える防災ワークショップ研修を現地で行なう。

参加者に肌で直接感じてもらい、気づきや学び（防災学習）と共に、今回伝える教訓の重要性を検証する。

## 2. 計画作成

### ●能登半島地震の現地調査とボランティア活動

主にソフト面（足湯、被災者傾聴など）の支援を計画中

1月中旬に、2泊3日の予定（調整中）、学生メンバー3人

- ・ボランティア活動は、阪神・淡路大震災以降、これまで多くの活動実績がある被災者NGO協働センター（神戸市兵庫区）を候補として活動に参加させて頂き、学生の研修として協力をお願いする。

### ●イメージ（未確定、変更あり）

前泊 夜 JR大阪→金沢、金沢駅近くに泊（夜行バスでは6:00着で間に合わない）

1日目 5:30発 JR金沢→七尾→西岸 7:30着

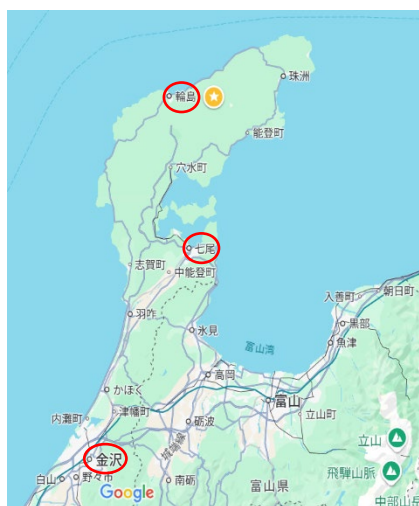
1日目 7:45頃から 石川県七尾市小牧にある協働センターの拠点にて  
活動スケジュールとガイダンス → 輪島に移動

10～15時頃 輪島市等での避難所などで被災者へのボランティア、傾聴対話  
宿泊（七尾市や穴水町）検討中

2日目 午前 研修（調査、リーダーとの語り等）

可能なら短時間ボランティア（七尾市周辺予定）

夕 JR金沢→大阪 帰大阪



七尾市中島町小牧  
 （被災地 NGO 協働センター 現地拠点）





11月30日(土)

14時~17時

開催



# やさしや足湯隊 交流会

場所 こうべまちづくり会館

参加費 無料

足湯ボランティアとは？

足湯ボランティアの意義とは？みんなで考えよう！！

2024年1月1日午後16時10分に石川県能登地方で震度7の地震が発生しました。「被災地NGO協働センター」「CODE海外災害援助市民センター」が連携して結成した足湯ボランティア「やさしや足湯隊」は現在、先遣隊～第19次隊（のべ165名）までが活動しております。

能登半島では復興への歩みを進めていた途中、9月21日に豪雨被害をもたらしました。これからも継続して能登半島に寄り添った支援が必要です。

今後の復興を考える上で、足湯ボランティアの意義や拾った「つぶやき」の意味を、みんなで考える機会を設けたいと思います。ボランティアに参加された方やボランティアに参加してみたい方、能登半島の現状やどんな活動を行なっているんだろうと気になる方など、どなたでもご参加下さい。

日時：2024年11月30日(土) 14:00~17:00

場所：こうべまちづくり会館

(神戸市中央区元町通4丁目2-14)

参加費：無料

開催：対面(オンライン zoomも可)

申し込み：

オンラインの方は、11月28日(木)までに申し込みください。翌日の29日にメールにてzoomのURLを送らせていただきます。

↓お申し込みはこちら↓

<https://forms.gle/1LMDVrGsoxuJVXVL8>

主催・お問い合わせ



被災地NGO協働センター  
CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801  
神戸市兵庫区中道通2-1-10  
TEL:078-578-7744  
Email:info@code-jp.org  
instagram:code\_1995kobe





11月30日(土)

14時~17時

開催



# やさしや足湯隊 交流会

場所 こうべまちづくり会館

参加費 無料

足湯ボランティアとは？

足湯ボランティアの意義とは？みんなで考えよう！！

2024年1月1日午後16時10分に石川県能登地方で震度7の地震が発生しました。「被災地NGO協働センター」「CODE海外災害援助市民センター」が連携して結成した足湯ボランティア「やさしや足湯隊」は現在、先遣隊～第19次隊(のべ165名)までが活動しております。

能登半島では復興への歩みを進めていた途中、9月21日に豪雨被害をもたらしました。これからも継続して能登半島に寄り添った支援が必要です。

今後の復興を考える上で、足湯ボランティアの意義や拾った「つぶやき」の意味を、みんなで考える機会を設けたいと思います。ボランティアに参加された方やボランティアに参加してみたい方、能登半島の現状やどんな活動を行なっているんだろうと気になる方など、どなたでもご参加下さい。

日時：2024年11月30日(土) 14:00~17:00

場所：こうべまちづくり会館

(神戸市中央区元町通4丁目2-14)

参加費：無料

開催：対面(オンライン zoomも可)

申し込み：

オンラインの方は、11月28日(木)までに申し込みください。翌日の29日にメールにてzoomのURLを送らせていただきます。

↓お申し込みはこちら↓

<https://forms.gle/1LMDVrGsoxuJVXVL8>

主催・お問い合わせ



被災地NGO協働センター  
CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801  
神戸市兵庫区中道通2-1-10  
TEL:078-578-7744  
Email:info@code-jp.org  
instagram:code\_1995kobe



## WG③2025 年兵庫県開催の全国コンソにおける 「コミュニケーションモール」を活用したパネル展示等の検討

### 【パネル展示の目的】

2025 年度に兵庫県で「第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」が開催されるにあたり、ひょうごコンソ加盟校や賛助会員を中心とした企業、県下の自治体を巻き込みながら、コンソの活動への内部理解を深めつつ、ひょうごコンソとしての活動を他エリアのコンソーシアム・大学に周知できる場を作り上げることを目的とする

### 【全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム概要】

#### ◆日時・場所

2025 年 8 月 30 日(土)31 日(日)

神戸学院大学・ポートアイランドキャンパス D 号館

#### ◆テーマ

「激変する将来社会を切り拓く新たな人材の育成にむけて～不易流行で考える大学間連携と産官学協働～」

#### ◆テーマ趣旨

文部科学省が中央教育審議会に諮問している「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について」にもあるよう、現在高等教育は大きな転換点を迎えている。「少子化」「デジタル化」といった外部的要因や、「問題発見・課題解決的な学習活動の充実」に代表される高校生の学びの変化など、今すぐに対応が必要となっている。

また、高等教育機関には文理横断・文理融合教育の推進や多様性と流動性を高めるためのリカレント教育を実施することで、未来社会を創出し、牽引する高度専門人材を育成することも求められている。「地域の中核となる高等教育機関へ」と成長・発展するためには、他の高等教育機関はもちろんのこと地方公共団体や産業界など、地域の様々なステークホルダーと一体となった産官学での取り組みを進めていくことが必要不可欠である。

その様な環境下で大学をはじめとした高等教育機関は、「不易流行(いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。)」の考えの下、変えてはいけない点と時代に合わせて変化していく点を、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」を視野に入れて見極めることが重要になってきている。

例えば大学コンソーシアムひょうご神戸においては長年留学生インターンシップを実施しているが、継続していく中で「変化していないこと」「変化したこと」の両方が混在している。

そこで今回のフォーラムは、大学間連携組織である大学コンソーシアムでの取組において、改めて活動の本質を考え、そのうえで最新の取組について知見を得ることができる場としたい。

#### ◆スケジュール(大枠)

1日目 8/30 (土)	午前	(加盟校職員対象プログラム)	
	午後	開会	ポスターセッション
基調講演			
シンポジウム			
情報交換会			
2日目 8/31 (日)	午前	分科会	
	午後		



◆1日目タイムスケジュール

		D101講義室	フードコートシーガル	コミュニケーションモール
12:00	受付		12:00-19:30 ポスターセッション	パネル展示
12:30	開場			
13:00-13:15	開会挨拶			
13:15-13:25	学生ステージ①			
13:30-15:10	話題提供:20分×5人			
15:10-16:30	休憩(→ポスターセッション会場へ) ★コアタイム			
16:30-16:40	学生ステージ②			
16:45-17:30	シンポジウム	話題提供者によるディスカッション		
17:30-17:45	閉会挨拶			
		フードコートシーガル		コミュニケーションモール
18:00-19:30	情報交換会		ポスターセッション	(パネル展示)

【パネル展示について】

◆展示場所(コミュニケーションモール)については別紙参照

◆検討内容

- ・パネル等ブース展示内容、時間、スペースの活用方法
- ・(賛助会員を中心とした)企業・自治体、学生の巻き込み方(周知の仕方・メリット等)

【全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム 会場地図】

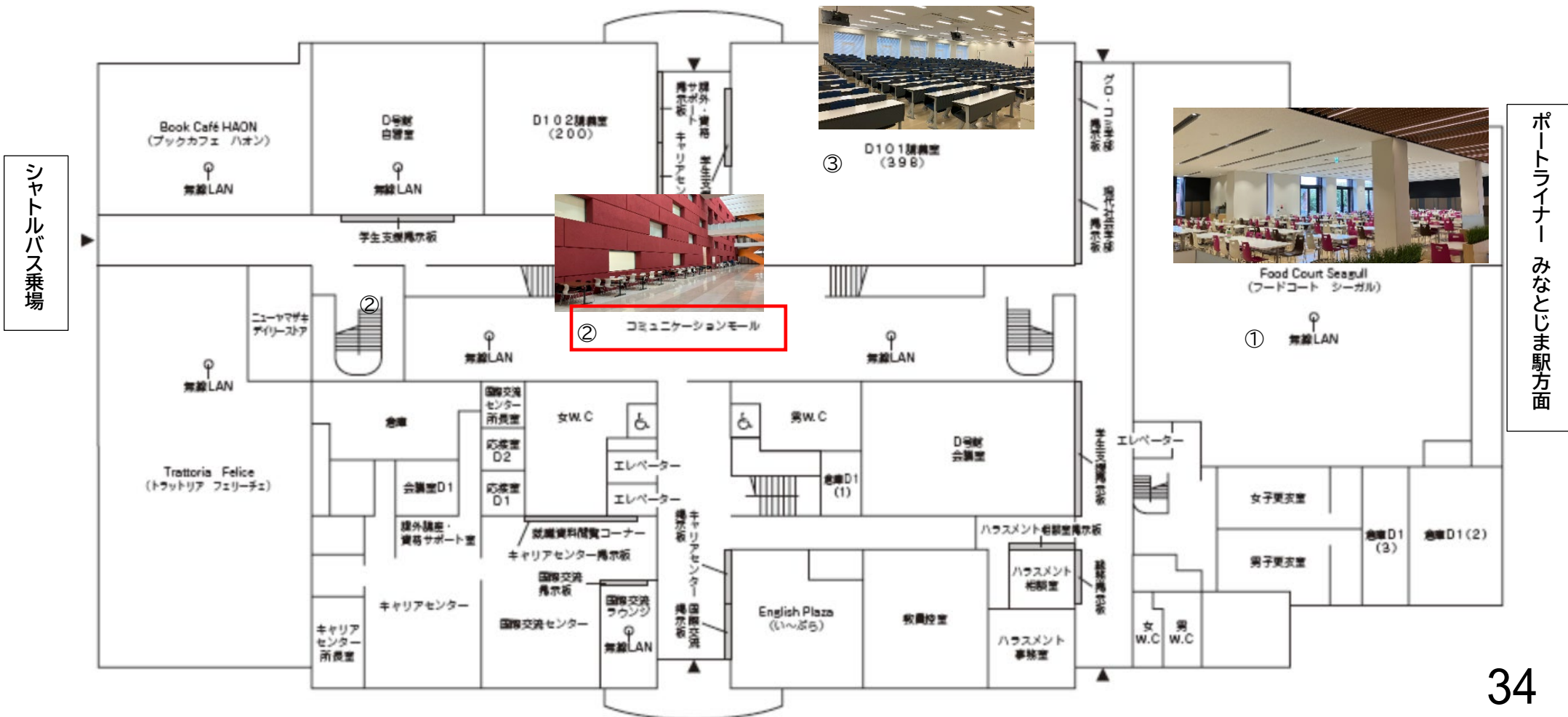
●(参考)開催場所

	写真	用途	会場	定員
1日目	AM	全国大学コンソーシアム協議会総会	D号館会議室	48名
	PM	① 基調講演・シンポジウム	D101講義室	398名
		② パネル展示(加盟校・賛助会員) ※阪神淡路大震災30年展示等	コミュニケーションモール	
		③ 情報交換会・ポスターセッション	フードコート シーガル	150名程度
2日目	AM	④ 分科会	D213・D217・D218・D220	各50名程度
両日		控室	D203・D204・D205・D206	

●神戸学院大学 D号館1階

●(参考)神戸学院大学 展示物品リスト

物品名称	個数	物品名称	個数
パネルスタンド(シルバー)	40	木製A型看板	37
木製パネルスタンド	15	ホワイトボード(大)	3
イーゼル	2	ホワイトボード(小)	3
木製イーゼル	2	ベルトパーティション	12
プラスチック製A型看板	34	コマ付案内板	21



神戸学院大学  
大学祭 同日開催!



詳細は コチラ



# ポアイ4大学 総合防災フェスタ



入場無料!!  
申込不要!!

2024年11月2日(土)  
10:00~15:00

みなとじま地区の防災・減災への関心や理解を深めることを目的に「ポアイ4大学総合防災フェスタ」を開催いたします。当日は「見て・体験して・楽しめる」防災にまつわるブースが勢ぞろい!

2025年1月17日で 阪神・淡路大震災から30年を迎えます。発災直後の被災地の様子がわかる展示や災害現場で活躍する車両展示、特別プログラムとして地震体験「ゆれるん」、消防艇の船内見学・放水パフォーマンスなども予定しています。ぜひ、ご家族でご来場ください。

## 【会場】

神戸学院大学  
ポートアイランド第1キャンパス  
ポアイしおさい公園周辺

※駐車場はございませんので、公共交通機関でお越しください。

会場地図は  
こちらをチェック!



消防艇「たかとり」による展示放水



心肺蘇生 & AED使用体験



水上消防団・港島地区防災対策委員会・水上消防署との連携訓練披露

【主催】 ポアイ4大学連携推進センター

【共催】 神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、兵庫医科大学

【協力】 神戸市水上消防署、神戸水上警察署、神戸市水道局東部水道管理事務所、神戸市港湾局、神戸市中央区地域協働課、神戸地方気象台、神戸新聞社、ポアイ健康・生活支援ステーション、神戸市水上消防団港島分団、港島地区防災対策委員会、神戸市水上防火安全協会、神戸大学地域連携推進本部、神戸学院大学防災女子

問合せ  
窓口

ポアイ4大学連携推進センター

☎ 078-974-4042

📍 神戸市中央区港島1-3-11(神戸学院大学ポートアイランド第2キャンパス内)

🌐 <https://www.kobegakuin.ac.jp/~kp4uc/>

✉ 4u-renkei@j.kobegakuin.ac.jp

# 体験ブース・展示

## 特別プログラム

13:30 ~ 15:00

SPOT 13

地震体験車「ゆれるん」

14:00 ~ 14:20

SPOT 14

水上消防団・港島地区防災対策委員会・水上消防署との連携訓練披露

14:40 ~ 14:50

SPOT 15

消防艇「たかとり」による放水パフォーマンス (しおさい公園から鑑賞 ※神戸学院大学8号館アーチ付近)

※時間指定のないブースは、10:00~15:00で開催しています。

SPOT 1

防火服着用体験・煙体験

車両展示 (神戸市水上消防署)

体験 展示 特別プログラム

■消防車両展示、防火服着用体験  
防火服を着て消防車と記念撮影しよう！  
子どもから大人までの防火服を用意しています。家族そろってお越しください！



【時間】10:00~14:00(最終受付 13:30)

■消防艇「たかとり」船内見学  
(しおさい公園 BE KOBE 前にて実施)

SPOT 5

応急給水体験

(神戸市水道局東部水道管理事務所)

体験

災害時における飲み水の確保は、人の生命を繋ぐ大切なことです。ブースでは、災害時に実際に派遣されるタンク車から、給水袋を使って水を汲む体験ができます！万一の災害に備え、応急給水の方法を覚えましょう。



SPOT 9

災害食アレンジレシピ実演

試食体験 (神戸学院大学防災女子)

体験 食

災害時に食べる食料は、特別な食材ではなく「お家にある食材全部」です。普段使いができて、災害時にも活用できる「ローリングストック食材」を使ったアレンジレシピの実演(ポリ袋調理) & 試食を行います。



SPOT 2

消火器使用体験・ロープ結索体験

連携訓練披露 (学生消防団)

体験 特別プログラム

学生消防団と一緒に体験しよう！

【時間】10:00~13:30

■消火器使用体験

水消火器を用いて、炎を模した的に向かって消火体験を行います。

■ロープ結索体験

消防士が現場で実際に使用する救助ロープの結び方を体験しよう！

【時間】14:00~14:20

水上消防団・港島地区防災対策委員会・水上消防署との連携訓練披露  
日々の訓練で培ったポンプ放水の技術を、皆さんの目の前で披露します！



SPOT 6

心肺蘇生・AED使用体験

(兵庫医科大学 看護学部)

体験

兵庫医科大学 看護学部の学生と一緒に体験しよう！  
救急車の到着までに行えることがあります。「命をつなぐリレー」です。自分の大切な家族、友達などの命を守るために、胸骨圧迫やAEDの方法について一緒に学びましょう！



SPOT 10

中央区の防災対策

(神戸市中央区 地域協働課)

展示

中央区における災害時の備えに関する情報を展示します。  
ご家庭へお持ち帰りいただける資料(避難所で外国人が困らないための指さしボードなど)もお配りします。



SPOT 3

防災教室・防災用車両展示

(神戸水上警察署)

体験 展示

■防災教室

日頃から、防災について準備していますか？防災クイズに挑戦して、みんなで防災について学びましょう。

■防災用車両展示

災害現場で実際に活躍する防災車両がやってきます！



兵庫県警察のシンボルマスコット「こうへいくん」も会場へ駆けつけます！



SPOT 7

阪神・淡路大震災パネル展示

(神戸新聞社)

展示

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、震度6以上の大きな揺れにより多くの建物が倒壊し、6,434人の尊い命が失われました。神戸新聞社が発行した震災当時の新聞記事を見ながら、今できる防災について考えてみましょう。



SPOT 11

災害語り継ぎ / 災害ボランティア

パネル展示 (神戸大学)

展示

学生の災害語り継ぎ、被災地での取り組み、大学の支援、地域の皆さまとの連携を紹介します。  
阪神・淡路大震災後、全国から支援を受けて復興しました。その感謝の気持ちから29年の間、全国で学生が自主的に災害ボランティア活動を行っています。そして阪神・淡路大震災地域の支援と災害の語り継ぎにも取り組んでいます。



<神戸大学ボランティアプロジェクト>

SPOT 4

こんにちは！気象台です！(気象・地震の実験)

(神戸地方気象台)

体験 展示

雲発生実験や震度計を動作させる体験など、気象・地震をもっと身近に感じていただける体験ブースを用意しています！  
天気予報のために気象台で使っている風向風速計や雨量計といった観測機器も展示します。  
気象・地震のことをもっと知ってみませんか？



SPOT 8

港島地区の防災について(展示)

(港島地区防災対策委員会)

展示

団地型マンションが多く立ち並ぶポートアイランドにおける、独特な防災の体制づくりや、日常の活動と防災訓練の仕組みについてパネル展示を行います。  
また、災害時に役立つ防災用品である、非常用簡易トイレや油圧ジャッキを展示し、使用方法を説明します。



SPOT 12

全国トップレベルの神戸の津波・高潮対策

について知っていますか？ (神戸市港湾局)

体験 展示

津波・高潮からまちを守る取り組みの「今」を紹介します！

■パネル展示

巨大地震による津波や過去最大級の台風における高潮が発生したらどうなるのか？図解したパネルを展示して職員が解説します！

■海岸防災クイズ

津波・高潮への備えにまつわるクイズを出題！基礎知識から超難問も！ぜひ挑戦しなさい。



36

※プログラムは予告なく変更となる場合があります。

2024年7月5日

第21回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム  
ポスターセッションブース出展募集要項（行政・協議会加盟団体用）

1. 日時

フォーラム開催日：

2024年9月7日（土）13：00～18：00、9月8日（日）10：00～12：00

※プログラムの詳細はリーフレットをご参照ください。

➤ ポスターセッション：2024年9月7日（土）12：00～16：30

➤ コアタイム：2024年9月7日（土）15：30～16：20

2. 会場

京都市立芸術大学 B棟 3階 講義室3、講義室4

3. 申込方法

➤ 申込方法：出展申込書をメール送付してください

(E-mail) [alljapan-consortium@consortium.or.jp](mailto:alljapan-consortium@consortium.or.jp)

➤ 申込〆切：2024年7月26日（金）

4. ポスターセッション資料の送付

指定配送業者にて、配達日指定で下記宛先まで送付してください。なお、指定日の配達間に合わない場合は、当日会場までご持参ください。

➤ 指定業者：ヤマト運輸、もしくは佐川急便

➤ 指定日時：2024年8月30日（金）※午前中の時間指定にてお送りください。

➤ 住所：〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ルキャンパスプラザ京都内

➤ 宛名：公益財団法人大学コンソーシアム京都

「全国大学コンソーシアム協議会」ポスターセッションブース分

➤ 電話：(075) -353-9100

※ 品名欄に必ず以下のとおり記載してください。

「第21回全国コンソフォーラム ポスターセッション関係資料

【貴団体名称、ご担当者名】」

※ 発送後、事務局まで配送業者および発送個数をご連絡ください。

(E-mail) [alljapan-consortium@consortium.or.jp](mailto:alljapan-consortium@consortium.or.jp)

※ ポスターセッション終了後に使用する着払い伝票は、事務局が用意した伝票を必ず利用してください。保険をかけて返送したい場合は、事前に事務局までお問合せください。

## 5. 当日の準備について

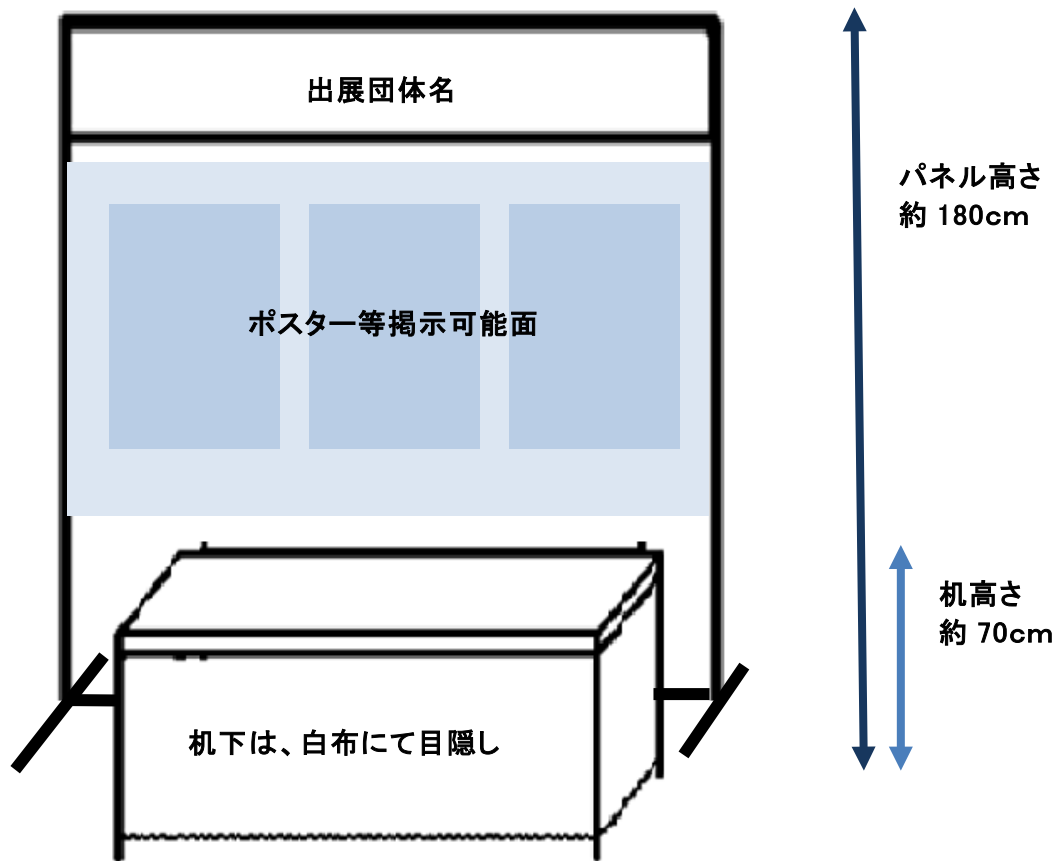
- 準備期間：9月7日（土）10：30～11：45  
※時間より前にお越しいただけませんのでご了承ください。  
※前日設営はできませんので、ご注意ください。
- 準備場所：京都市立芸術大学 B棟 3階 講義室3、講義室4
- 準備物：フォーラム主催者側で、出展団体名掲示、パネル、机をご用意いたします。  
それ以外（PC、テーブルタップ、パネル貼付け用の画びょう等）は、各自ご用意ください。  
ご送付いただいたお荷物は会場で受け取っていただけます。

## 6. コアタイムについて

原則、出展団体スタッフが1名以上、パネル横にてご対応いただきますようお願いいたします。

- コアタイム：2024年9月7日（土）15：30～16：20

<ブースイメージ図>



- ※ パネルサイズ：1ブースにつき幅 180 cm (90 cm×2)、高さ 180 cmのパネル (予定)  
机サイズ： 幅 120 cm、奥行 60 cm、高さ 70 cmの机 1台 (布クロスをかけます)
- ※ パネルにはピン、弱粘性のテープ類が使用できます。
- ※ パネルへの貼付は画びょう (各自持参)で行ってください。
- ※ パネルの上部に出展団体名を掲示します。(フォーラム主催者側で準備します)
- ※ PC利用等で電源コンセントが必要な場合は、申込時にご記入ください。

2024年11月29日

## 2025年兵庫県開催の全国コンソにおける「コミュニケーションモール」を活用した パネル展示等についてのアンケート(お願い)

2025年8月30日-31日に兵庫県で開催される全国コンソにおいて「兵庫から発信する大学間連携や産官学連携」をテーマにパネル展示を行う予定です。つきましては、以下のようなご提案を募集いたします。学生交流委員会の意見も踏まえて内容調整、検討しますので、12月10日までに、貴学にて展示・出展可能性がありそうな取り組みについてご提案下さい。

### 記

【日時】2025年8月30日(土)12:00-19:30(コアタイム:15:10-16:30)

※上記時間において、各ブースの人員配置は必須ではない

【会場】神戸学院大学・ポートアイランドキャンパス D号館

【展示コンセプト】「兵庫から発信する大学間連携や産官学連携」

以下の3つの分野について、加盟校から展示を募集する。

①大学間連携 ②産官学連携 ③震災30年:阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ大学・学生の活動

【経費について】

#### 1、展示物・備品:出展校にてご負担

・展示パネル・ポスターなど、展示物に係る製作費 ※既存作品の展示も可

・テーブルクロス・パソコン・コンセントケーブルなど

(会場内の電源使用・持ち込み備品の可否は神戸学院大学に要確認)

・学生団体への謝金はなし ※交通費支給の有無は、学生交流委員会にて検討

#### 2、会場設備:コンソ・神戸学院大学にて準備

・長机・掲示用パネル・パネルスタンドなど

【アンケートのお願い】

展示内容の検討にあたり、特に「③震災30年:阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ大学・学生の活動活動」についての状況を把握したく、学生交流委員の皆様には、③のテーマに関係する活動について、ご回答をお願いいたします。当日、会場に参加して、展示説明等を行う学生も募集します。

<展示イメージ:例>

・阪神・淡路大震災を契機として、取り組みを続けている学生の教育・研究活動

・近年の自然災害に対する、学生ボランティア活動

・当日、ブース出展して、大学や学生団体の活動を説明できる学生団体・ゼミ生

・その他

【アンケート回答フォーム】

2025年兵庫県開催の全国コンソにおける「コミュニケーションモール」を活用したパネル展示等についてのアンケート(学生交流委員会)

<https://ws.formzu.net/dist/S81719085/>

【回答締切】2024年12月10日(火)17:00

※展示の構成・内容等は、これから検討を進めます。上記は現時点でのイメージです。

ご意見等あれば、お寄せください。

以上



# キッズフェスティバル 2017

子どもたちのための  
フェスティバル!!  
子どもたちが楽しめる  
体験型イベントです。

**参加無料**

●開催日時

平成29年 **11/26**日  
【午前の部】10:00~11:30  
【午後の部】12:30~14:30

●開催場所

**こべっこランド**  
(神戸市総合児童センター)

参加  
大学

関西国際大学／関西学院大学／甲南女子大学／神戸  
海星女子学院大学／神戸学院大学／神戸親和女子大学  
／神戸女学院大学／神戸女子大学／神戸常盤大学

○参加対象 子ども(乳幼児～小学生)とその保護者・関係者

○参加費 無料

○入場券 当日、「午前の部」「午後の部」別に先着順(各部定員子どもさん250名)で、こべっこランド1F受付で配付いたします。

○その他 都合により、中止・延期する場合は、大学コンソーシアムひょうご神戸および神戸親和女子大学HPに掲載させていただきます。

●主催 大学コンソーシアムひょうご神戸 ●共催 社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会

●お問い合わせ先「キッズフェスティバル2017」事務局(神戸親和女子大学 地域交流センター内)

〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13-1 TEL. 078-591-2934(9:30~16:00 土日祝・休) FAX. 078-591-5243

【会場までの交通】

※所在地／神戸市中央区東川崎町1-3-1

こべっこランド(神戸市総合児童センター)

●JPR「神戸」駅下車、南に徒歩5分 ●市営地下鉄  
「ハーバーランド」駅下車、南へ徒歩5分 ●神戸高  
速鉄道「高速神戸」駅下車、南へ徒歩10分

# 大学コンソーシアムひょうご神戸 キッズフェスティバル 2017

## こべっこランド (神戸市総合児童センター)

### 個別ブース

<p><b>① 関西国際大学</b> ACヒーローズ</p> <p>ヒーローになって 「わるもの」をやっつけよう!</p> <p>・ヒーローのお面づくり ・輪投げかボーリング</p>	<p><b>② 関西国際大学</b> 福祉学専攻2年</p> <p>みんなおいでよ わくわくすぽんじあーと</p> <p>障害を持った方々が仕事をしている 中で「出る廃材(スポンジ)」を使い、 様々なものを作ってもらう</p>	<p><b>③ 関西国際大学</b> おもちゃ研究会</p> <p>くまさんの玉入れ</p> <p>くまさんの口にりんごに 見立てた玉を投げ入れて遊ぶ</p>	<p><b>④ 関西国際大学</b> そんばちteacherと愉快的仲間たち</p> <p>昔のおそび</p> <p>昔のおそびを経験しよう! 昔のおもちゃを作ろう!</p>
<p><b>⑤ 関西国際大学</b> 児童文化研究会</p> <p>クリスマスツリーの 飾りを作ろう!</p> <p>クリスマスツリーに飾る、 飾り(サンタクロース、プレゼント)を作ります。 画用紙に自分の好きなモール・リボン・シール などを選び貼ってもらいます。</p>	<p><b>⑥ 関西学院大学</b> 絵画部弦月会</p> <p>世界に一つだけの オリジナルキーホルダーを 作ろう!</p> <p>みんなの描いた絵がきれいな透明の キーホルダーになります! 自分だけのオリジナルキーホルダーを 作りましょう!</p>	<p><b>⑦ 甲南女子大学</b> KEEP SMILING よさこい部</p> <p>よさこい体験</p> <p>よさこいの演舞披露と 子供達によさこいを レクチャー&amp;体験してもらおう</p>	<p><b>⑧ 神戸親和女子大学</b> 音楽ゼミ</p> <p>手作り楽器をつくろう!</p> <p>手作り楽器を作って、完成した楽器で、 おゆえさんたちと楽しく演奏しましょう。 ブラスバンドとも共演します♪ ぜひ遊びにきてね☆</p>
<p><b>⑨ 神戸親和女子大学</b> 塩見ゼミ3回生</p> <p>えいごであそぼう</p> <p>「変身カード」を作る そのカードを使って英語で遊ぶ</p>	<p><b>⑩ 神戸親和女子大学</b> 柴ゼミ</p> <p>ほんぼこシアター</p> <p>絵本「ぼんたのじどうはんばいき」の パペットをします。 手作りのパペットを使って みんなが参加できるような楽しい劇をします。 ぜひ来てください。ポスタもまっています。</p>	<p><b>⑪ 神戸親和女子大学</b> 中瀬古ゼミ</p> <p>作って遊ぼう☆</p> <p>子どもと一緒にものづくりをして それを遊んで遊ぶ</p>	<p><b>⑫ 神戸女子大学</b> 曾田ゼミ</p> <p>松ぼっくりで作る クリスマスツリー</p> <p>松ぼっくりを使って、 かわいいクリスマスツリーを作る</p>

### センターブース

<p><b>⑬ 神戸常盤大学</b> ハローベビー部</p> <p>クリスマスのかざりを つくろう!!</p> <p>クリスマスツリーに飾る オーナメントや雪だるまの置き物を 紙粘土で作ります。</p>	<p><b>神戸海星女子学院大学</b> 心理こども学科</p> <p>バルーン</p> <p>バルーンをみんなが 大変身させちゃおう!</p>	<p><b>神戸親和女子大学</b> 勝木ゼミ3回生</p> <p>世界に1つだけの縄を編もう⇒ 世界に1つだけのカラフルロープを つくってあそぼう</p> <p>なわとびにもなる、カラフルロープを 好きな色で作しましょう</p>	<p><b>神戸女子大学</b> 下司ゼミ</p> <p>指文字カードで自分の ネームカードを作ろう</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------

### 合同ブース(A)

<p><b>関西学院大学</b></p>	<p><b>神戸学院大学</b></p>
<p>かえるびよこびよこ</p> <p>自分のびよんびよんがエルを森の中で遊ばせてみよう!!</p>	

### 合同ブース(B)

<p><b>神戸女学院大学</b></p>	<p><b>神戸親和女子大学</b></p>
<p>カルタ&amp;ラミネートカード</p> <p>カルタはどうぶつのイラストが描かれた絵札を取ります。 ラミネートカードは描いた絵をラミネートしてカードにします!</p>	

2024年11月29日  
 学生交流委員会委員長 神戸常盤大学 工藤達也

キッズフェスティバルに関する意向アンケート(お願い)

2022年～2024年の3年間において、事業計画(③取組1—1)「テーマ型の学生交流プロジェクトの実施<WILL BE プロジェクト>①地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動」に取り組んだ結果、「子どもに関わるボランティア」への学生のニーズは一定数あり、共催者、受入施設ならびに参加学生の満足度は高い状況である。しかし、授業期間(平日・日中)の活動が中心となるため、参加希望しても活動に至らない学生が過半数を占める状況が続いている。つきましては、次年度以降、「子どもに関わるボランティア」の内容を再検討したい。

一案として、当コンソーシアムで2015年～2021年に取り組み、一定の成果があった「キッズフェスティバル」を新たな形で実施することを提案したく、皆様のご意向をアンケートにて伺いたく存じます。また、別途、各委員の皆様にて推進提案いただける取組があれば、アンケート備考欄にて、ご提案ください。

なお、次年度事業計画は、12月に自己評価提出を経て、翌1月理事会での「事業改善提案」を受けて、2月に本委員会での審議を経て作成する予定です。

【キッズフェスティバル実績】

2015年～2021年に取組を進めた「キッズフェスティバル」の開催実績は以下の通り。

学生交流・学生プロジェクト事業「キッズフェスティバル」開催実績

年度	主旨	会場	参加校	参加者数
2015	学生交流事業	神戸市立王子動物園	7校 21 団体	親子 1,000 名
2016	学生交流事業	こべっこランド	7校 20 団体	学生 108 名、親子 735 名
2017	学生プロジェクト事業	こべっこランド	9校 20 団体	学生 190 名、親子 552 名
2018	学生プロジェクト事業	こべっこランド	9校 19 団体	学生 155 名、親子 555 名
2019	学生プロジェクト事業	こべっこランド	12校 22 団体	学生 155 名、親子 555 名
2020	学生プロジェクト事業	こべっこランド	対面5校3団体・ 動画7校10団体	学生 35 名、親子 95 名※
2021	学生プロジェクト事業	こべっこランド	対面6校8団体 動画11校13団体	親子 144 名※

※新型コロナ感染症対策のため、規模を縮小して開催した

※2022年「こべっこランド」移転にともない、開催条件に合う会場確保が困難になったこと、中長期計画Ⅰ期(2017～2021)の最終年度を区切りとして、中長期計画Ⅱ期(2022～2026)での学生交流委員会の運営体制を鑑みて、2022年度は新規事業を計画・実施することで、現在に至る。

【アンケート回答フォーム】

キッズフェスティバルに関する意向アンケート(お願い)

<https://ws.formzu.net/dist/S44888258/>

【回答締切】2024年12月10日(火) 17:00

【今後の予定】

次年度事業の作成に向けた、2023年12月～2024年3月の予定は以下の通り。

- ・12月：2024年度事業の「実施内容(結果)と自己評価」の作成、提出  
ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体(※)の意見聴取  
※兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会  
第9回企画運営委員会による「事業改善提案」の検討
- ・1月：第5回理事会による「事業改善提案」の審議  
各事業委員会へのフィードバックと「2025年度事業計画・予算」提出依頼
- ・2月：第11回企画運営委員会にて「2025年度事業計画・予算」検討  
第6回理事会による「2025年度事業計画・予算」審議  
⑧ひょうご産官学連携協議会にて、「2025年度事業計画・予算」審議

以上